

教科		地歴公民		科目		日本史B		単位数		5単位	
学年		3年		科		普通科		専攻・コース		大学進学コース	
教科書		山川出版社 詳説 日本史B				副教材		帝国書院 図説 日本史通覧			
学習到達目標		我が国の歴史の展開を諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けて総合的に考察させ、我が国の伝統と文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる日本国民としての自覚と資質を養う。									
評価の観点		<p>◇平常の授業に取り組む姿勢、定期考査の結果、課題やレポートなどの提出物の状況を総合的に判断し、尚かつシラバスに記載した評価の観点に即して総合的に判断する。</p> <p>◇授業への取り組む姿勢は、授業態度、ノート提出、発表の状況などを評価の対象とする。</p> <p>◇課題やレポートなどの提出物では、提出期日や分量を守れたか、自分の視点で考察できたか、丁寧に書くことができたか等を主な判断基準とする。</p>									
期	月	学習内容・項目				学習のポイントと到達目標				備考	
前	前期 第1回 定期 試験	<b>第Ⅲ部 近世</b> <b>第6章 幕藩体制の確立</b> 1. 織豊政権 2. 桃山文化  3. 幕藩体制の成立 4. 幕藩社会の構造				<b>第Ⅲ部 近世</b> <b>第6章 幕藩体制の確立</b> 1. 織豊政権 ＊大航海時代と呼ばれる世界史的背景を踏まえて、ヨーロッパ人の東アジアへの進出とその影響を考察する。 ＊織田信長の統一事業、豊臣秀吉の天下統一、秀吉の朝鮮侵略と続く織豊政権の特色と意義、その後の時代への影響について考察する。 ＊新興の大名や都市の豪商の精神を反映した桃山文化について、町衆の生活にも着目し、時代的背景を踏まえて考察する。 ＊江戸幕府の成立による幕藩体制の確立過程を考察する。 ＊江戸幕府の鎖国政策について、単なる対外貿易の遮断ではなく、鎖国後の貿易関係の在り方も含めてその影響と歴史的意義について考察する。 ＊幕藩体制の確立期の経済・社会を兵農分離や村落・都市支配などの観点から、多面的・多角的に考察する。					

期	前期 第2回 定期試験	<b>第7章 幕藩体制の展開</b> 1. 幕政の安定 2. 経済の発展  3. 元禄文化	*17世紀後半から18世紀前半までの江戸幕府の安定期について、その平和と秩序の確立の視点で考察する。 *幕藩体制の安定期の農業・商工業などの発展について、諸産業相互の関係やその社会的役割を踏まえて考察する。 *経済の発展と関連して町人文化が形成された事について、町人の社会的台頭や幕藩体制の安定と関連させて理解する。	
	前期 末 試験	<b>第8章 幕藩体制の動揺</b> 1. 幕政の改革 2. 宝暦・天明期の文化  3. 幕府の衰退と近代への道 4. 化政文化	*農村や都市の変容により幕藩体制が動揺する中、幕府や諸藩が行った諸改革の意義とその影響を考察する。*平安前期を中心とした古代国家の推移について、東北経営や政治改革、地方統治の変容を踏まえて、律令体制の変質を考察する。 *欧米諸国のアジア進出による国際情勢の変化やそれに対する幕政の対処を踏まえて幕府が衰退していく過程を考察する。 *近代化の基盤の形成について、産業経済面や軍事面などに着目して、雄藩の浮上という地方からの視点から考察する。 *化政文化について、学問・思想・教育・文学・美術・生活文化の新たな展開に着目し、江戸と地方の文化的交流にも留意して考察する。	
期	月	学習内容・項目	学習のポイントと到達目標	備考
		<b>第10章 二つの世界大戦とアジア</b> 1. 第一次世界大戦と日本 2. ワシントン体制	*第一次世界大戦前後の政治の動向及び対外政策の推移について、政党政治の発展や日本の中国進出の状況を踏まえて考察する。 *第一次世界大戦が日本の社会経済や政治に及ぼした影響について、欧米・アジア経済との関連や政党内閣の成立などと関連させて考察する。 *ワシントン体制に至る国際的協調体制の進展など国際環境の推移を、日本の立場に着目して考察する。 *民主主義的風潮による社会運動の動向を理解すると共に、普選運動など政党政治の発展から二大政党による政党内閣制成立に至るまでの意義について考察する。	
		後期 第1回 定期試験		

後	<p>4. 恐慌の時代 5. 軍部の台頭</p>	<p>*戦後恐慌から昭和恐慌に至る国内経済の動揺について、国内・国外の経済状況と対策に着目して理解する。</p> <p>*社会主義運動の高揚と国家主義の台頭による軍部の政治的進出を踏まえて、協調外交が挫折していく過程を考察する。</p> <p>*日本の対外政策の推移について、世界情勢や軍部の政治的進出に着目して、政党内閣の崩壊や国際的孤立の過程について考察する。</p> <p>*恐慌から脱出し、国家主義が高揚するなかで、五・一五事件から二・二六事件にかけて、軍部の影響力が増大していく過程を考察する。</p>	
学 年 末 試 験	<p>6. 第二次世界大戦</p> <p><b>第11章 占領下の日本</b></p> <p>1. 占領と改革 2. 冷戦の開始と講和</p>	<p>*日中戦争の勃発から太平洋戦争の突入にいたる過程について、国民生活の変化や諸統制に着目して全体主義的な国家体制の進展を考察する。</p> <p>*第二次世界大戦について、国家間の相違や総力戦の特色を踏まえ、この戦争が空前の惨禍をもたらした点に着目して、平和で民主的な国際社会の実現に努める重要性を認識する。</p> <p>*戦後の世界秩序を踏まえ、占領政策及び戦後の民主化政策とそれに伴う諸改革について、その経過と内容を考察する。</p> <p>*戦後政治の動きを踏まえて、集大成となる日本国憲法制定の意義を理解する。</p> <p>*東アジア情勢の変化を踏まえ、連合国による占領が終結し、日本が独立した意義を考える。</p> <p>*連合国による日本占領の終結と、その後の日米関係の継続について、様々な国の立場から考察する</p>	